

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400077		
法人名	あかり株式会社		
事業所名	グループホームあかり(西ユニット)		
所在地	静岡県島田市宮川町2349-6		
自己評価作成日	平成27年11月20日	評価結果市町村受理日	平成27年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kami=true&jiyosyoCd=2295400077-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

拘束感のない開放的な施設を目指しています。
 毎日の活動はユニット内だけでなく、玄関ホール、多目的スペース(活動室及び研修室)を日常的に
 利用したり、近所への買い物、季節を味わう外出など多様な活動を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「一人ひとりが自ら燈(あかり)となって輝き、すべての人が自分らしく暮らせる地域づくり」を目指して「あかり」と名付けられた事業所です。公共の美術館にも似た趣ある玄関に入ると大きな古時計の出迎えがあり、目に優しい絵画や観葉植物が配され、気持ちの良い空間が広がります。陶芸をはじめとする知的なアクティブ活動のほかドックセラピーの癒しタイム、干し柿づくりの伝承レクリエーションが薫々と続くなか、本年度からは事故統計をとり始めています。リスクマネジメントに力を注げるようになった状況からは現場の安定感が見え、取組みを通じて職員の意識改革にもつながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員採用時に文書にて研修し、共有をしている。 ・毎月のユニット会議、代表者会議(管理者会議)で確認している。	入職の折には法人理念が記載された開設趣意書を代表者自ら示して、運営の基本方針の理解を促しています。「カフェを～」との職員提案は実現し、次の段階として居酒屋企画もあり、職員には利用者本位の発意がみられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会に所属し会費納入、回覧板、年2回の防災訓練に参加している。 ・施設のイベントのお知らせや、近所の商店への買い物などを日常に行っている。	デイサービスから始まった法人のため、地域の知名度は開設前から担保されています。近所からはおしゃべりと島田市つかり体操支援が毎週あり、ハーモニカボランティアなど町内の応援が数多くみられることに特長があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症やターミナルケア、介護保険についての説明・講座の依頼には積極的に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・ご家族、地域自治会、行政の意見を参考に、改善できるところは行うように努めている。	例えば転倒事故では、行政「プランに位置付けてほしい」、自治会「職員数との因果関係を」、歯科医「転倒で抜けた歯は念のため持参を」と挙がり、豊富なメンバーの知己が有意義な場へと発展させていることを書面確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・認定調査や更新申請時にやり取りをしたり、それ以外にも協力関係を築くようにしている。	運営推進会議へは毎回出向いてくださり、貴重な助言を得ています。現在島田市には地域密着型事業所の連絡会がなく、事業所からは行政窓口働きかけたり、同業者同士で「やりたいね」と声を掛けあっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・基本的に拘束をしない理念のもと、研修への参加や個別ケアの実践、拘束感のないケアを行っている。	本年度から事故統計をとり始め、リスクマネジメントに力を注げるようになったことから現場の安定感が覗えます。また、取組みを通じて職員も「もしかしたらこれは防げたかも」と、意識改革にもつながっています。また結果は家族にも報告しています。	状況によってはユニットの施錠があり、玄関は押しボタンが必要となっていることから、定期で議題にするなど意識が固定しない工夫を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ユニット会議等で話し合いがなされている。 又、内出血発見シートを用いて検討をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・入居者の方で、成年後見制度を利用していた方がおり、弁護士とのやり取りをしていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時にわかりやすい言葉を使用して説明を行い、署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議を全員のご家族にお知らせし、ご意見を伺うようにしている。	家族の関わりは総体としては厚く、運営推進会議は最大7名の出席実績もあります。プランを介してのやりとりも頻繁にあり、キーパーソンに事情があって面会が難しいときは管理者兼ケアマネージャーが自宅訪問しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者会議(管理者・ユニットリーダー) ・ユニット会議 ・個人面談 ・スタッフ懇親会 等	昨年の目標であった個人面談については代表者が全員に対しておこない、「資格をとりたい」といった具体的な声も得られ達成しています。また年間の個人目標をたてての年2回の面談の制度を定着させるべく、始動しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・税理士、労務士の関与による助言等により適切な整備を図るように努めている。 ・適切な内部規定を作成し整備するよう図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修や事業所で勤める研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・近隣の施設との交流で、制度や研修、ケアについての情報交換に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・環境に早く慣れていただくために、ケアプランの目標に沿ったケアを個別に丁寧に行い、スタッフや利用者との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族との面談を丁寧に行い、満足いく聞き取りを心掛ける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・在宅のケアマネと連絡を取り、入居前に情報を得ようとしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・生活者としての視点で、その方と食事作りや、洗濯物たたみ等を行うことで、共同生活の一員として過ごしてもらうように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・体調不良時や受診時に、家族と連絡を密に取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居されても以前の友人や近所の方など、面会に来て下さる方を拒まず受け入れている。	面会は「何時まででもいいですよ」と知らせてはいますが、玄関施設が20時のためかそれ以降留まる家族はいません。事業所としては面会よりも、受診を含む外出での食事やドライブ、買い物を奨励し、家族も協力的です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・レクリエーションや作業により、入居者同士のコミュニケーションが出来るように職員が間に入っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院や転居先への情報提供をし、フォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・これまでの生活歴を伺い、その事柄をケアプランに生かせるように努力している。	広告チラシをみて「ハンバーガーが食べたい」と突然言い出すこともあり、傾聴だけでなく視覚での刺激も併せて大切にしています。入浴や食後のゆったりとした時間で取得したものはユニット会議を通じてプランに反映されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・出来るだけ細やかな聞き取りでアセスメントを行うことで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一日の過ごし方、心身状態の把握は目標に沿って行っている。有する力等の把握は努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ユニット会議内のカンファレンスにて状況変化の確認等を行って、介護計画へ反映させている。	朝礼は夜勤者も残っているため、素早い変更も叶っています。家族には説明と合意押印はありますが、サービス担当者会議として揃うことがなく課題としています。幸い成年後見の司法書士との会議は近く予定されており、事業所としても継続を期待しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日常の申し送り、カンファレンスの実施で職員間の情報共有を深めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・鬱的な方への気分転換の試み。外出、陶芸、工作、編み物、デイサービスへの訪問等工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティア(音楽、ドッグセラピー、体操、傾聴等)の柔軟な受け入れで、潤いのある生活を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・主治医⇄ケアマネ連絡票やメモを用いて、必要時同行受診する等を行っている。	かかりつけ医でも受診が困難になれば往診くださる例もあり、概ね在宅からの継続で家族が付添っていますが、気がかりな症状があれば職員も同行します。平日午前中のみ勤務ですが看護師の健康管理もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・平日AM 看護師に排便がないことを伝え、適切な処置が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時情報提供書を用いて、病院のMSWを通して支援できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ケアマネ連絡票や主治医との面談を行い方針を確認し、家族の意向も伺いながら行っている。	かかりつけ医のなかには往診が無理ということがあり、事業所としては家族が「此処で」と望むならば主治医を替えてもらえたら取組めると考えています。また葬儀参会の礼状にあかりの名前がしたためられ感謝を示してもらった事例からは、事業所の尽力の深さが伝わります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・努めている。 新人については、管理者、リーダーが指導をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・施設内研修で、消火器の使用方法や避難方法を訓練している。	法定訓練2回のうち1回は消防署職員立ち合いがあり、職員レポートからの反省点や感想も総括が書面化されています。町内会の防災組織とはデイサービス単体の頃から法人として関わりをもち、防災管理者が顔の見える関係を築いています。	建物も堅固で、かつ井戸を保有することから「有事には地域の皆さんに貢献できるのでは」との自負もあるため、町内会の発電機で井戸の汲み上げ試用を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 基本敬語で話すが、その人の性格等により言葉掛けは変えている。 横に寄り添い視線を合せて会話をする。 	「利用者の家宅へと訪問介護者のように働かせてもらうという気持ちで」ということが代表者から繰り返し示唆されているため、「入室にはノックする」「何かにつけ尋ね確認する」といったことが自然に在ります。また面会簿は個人毎に用意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる面で、まず本人の希望を聞いてから実施。希望を言えない方には、こちらからいくか提示し、希望を聞いている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 午前中の体操は毎日の日課としてあるが、その他は何をやりたいかを聞きながら、その場の状況により、個別又は集団で活動したり、談話などを行っている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> いつも同じような服にならないよう、服選びをしている。 起床時の整容、又都度身だしなみを整えている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 会話の中で食べ物のお話をしたり、広告や料理の本を見ながら好みを聞きメニューに取り入れている。 出来る人には、役割として野菜の皮むき等を行ってもらっている。 	家庭的でありながらも栄養面や彩りが吟味され、また大根おろしにシソの刻みが入り、五目豆の豆も落花生だったり気持ちの手数として反映されていました。全利用者が女性のため食材のことや調理法について賑わっていました。	車いすのまま食事の人もいましたので、椅子への移乗ができない理由を職員間で話し合うことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 体重増加のある方には量を減らしたり、空腹の訴えをする方には、少量を多めにしたりしている。 活動後は必ず水分提供を行い飲みが悪い方にはこまめに水分提供を行っている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> 食後は必ず口腔ケアを行い、自分でしっかりと洗えない方には仕上げ磨きを行ったりするが、出来るところまでは自分で行っていただく。 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の排泄パターンを把握し、時間を見ながらトイレの声掛けを行っている。 ・失敗のない方は布パンツに変更したり、パッドをやめたりしている。 ・出来る事は、ゆっくりでも自分でやっていた。 	ユニット毎に3箇所あり、また活動室には専用トイレもあります。場所がなくやむなく取り付けたとのことですが避難扉があることに特徴があります。皮膚疾患のある利用者へのアプローチが好結果だったことから「この人もできるかも…」と進み、布パンツ移行が3例となりました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食には、毎日ヨーグルトを提供し、野菜や煮物のメニューを多くしている。 ・毎日30分以上の全身体操を行っている。 ・水分提供を行っている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴の声掛け～準備～入浴まで同じ職員が対応。入る時間も急がせる事なく本人に合わせている。入りたくない時は無理強いせず、日や時間を変更している。 ・昼食後は必ず休息の時間を設けている。 ・活動後に疲れた様子がある時は、休息していただく。 ・個々に応じた時間に就寝していただく。 	一面から脚を入れるごく普通の一般家庭の浴槽ですが、重度化となっても2人介助で湯に浸かる喜びを味わえています。東ユニットでは毎日でないとな不安となる人もいて、状態や要望に応じておこなっています。お楽しみとして足浴を待つ人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食後は必ず休息の時間を設けている。 ・活動後に疲れた様子がある時は、休息していただく。 ・個々に応じた時間に就寝していただく。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の間違えが無いよう、内服時間別に仕切りをして薬箱に保管している。 ・下痢は便の状態により調整している。 ・眠剤も、その人の入眠状態により時間調整している。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・その人の出来る事、得意な事等を役割として毎日行ってもらっている。(ゴミ箱作り、洗濯たたみ、調理手伝い、雑巾縫い、季節の壁画等) 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日には、花を見たり外の景色を見たりしている。 ・遠出の時は、利用者の希望を聞いている。 ・家族には声はかけたが参加はない。 	日常的に100円均一やスーパーマーケットに出かけていますが、ADLによって頻度が異なることは否めません。最近では西ユニットでは川根の温泉へ、東ユニットは御前崎のなぶら館を堪能し、笑顔の写真掲示もありました。	大衆演劇観覧希望の声があるとのことで、是非実現を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・外出した際は、個人のお金を持って、好きなものを買ったり、自分で支払いができる人はしていただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・届いた手紙はご本人に渡し、読めない場合はこちらで読むこともある。 ・失くさないよう、保管しておく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室、フロア、浴室、トイレ等の環境整備を行って、清潔で明るい空間で過ごして頂くように心掛けている。 ・季節がわかるよう、季節の壁画作りや季節の花を飾ったりしている。	天窓からの採光とともに白い壁と白木の太い梁が空間をより明るくさせています。リビングを中心に放射状となる居室は集いやすく、また職員も全体を見渡せるもので安心感のある設計です。長い廊下には島田の歴史を物語る写真がギャラリーのように並び回想法にも役立っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・独りになる時は活動室に行ったり、少し気分転換をはかれるようにしていく。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・家で使っていたタンスや椅子、家族の写真を置いたりして、安心して過ごして頂いている。	鏡台には化粧品が、またドレープのあるレースがテーブルに掛けられ、まるで展示場のように洒落た居室は本人が直に案内くださいました。また小さな筆筒一つの居住者は家族との関係が深く、都度衣類交換での面会があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ユニットから活動室へ行く際に車椅子の方、歩行の方共に危険の無いよう、自分の出来る事は行っていただき、付き添い見守りを行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400077		
法人名	あかり株式会社		
事業所名	グループホームあかり (東ユニット)		
所在地	静岡県島田市宮川町2349-6		
自己評価作成日	平成27年11月20日	評価結果市町村受理日	平成27年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=229

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

拘束感のない開放的な施設を目指しています。
 毎日の活動はユニット内だけでなく、玄関ホール、多目的スペース(活動室及び研修室)を日常的に
 利用したり、近所への買い物、季節を味わう外出など多様な活動を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「一人ひとりが自ら燈(あかり)となって輝き、すべての人が自分らしく暮らせる地域づくり」を目指して「あかり」と名付けられた事業所です。公共の美術館にも似た趣ある玄関に入ると大きな古時計の出迎えがあり、目に優しい絵画や観葉植物が配され、気持ちの良い空間が広がります。陶芸をはじめとする知的なアクティブ活動のほかドックセラピーの癒しタイム、干し柿づくりの伝承レクリエーションが肅々と続くなか、本年度からは事故統計をとり始めています。リスクマネジメントに力を注げるようになった状況からは現場の安定感が視え、取組みを通じて職員の意識改革にもつながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員採用時に文書にて研修し、共有をしている。 ・毎月のユニット会議、代表者会議(管理者会議)で確認している。	入職の折には法人理念が記載された開設趣意書を代表者自ら示して、運営の基本方針の理解を促しています。「カフェを～」との職員提案は実現し、次の段階として居酒屋企画もあり、職員には利用者本位の発意がみられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会に所属し会費納入、回覧板、年2回の防災訓練に参加している。 ・施設のイベントのお知らせや、近所の商店への買い物などを日常に行っている。	デイサービスから始まった法人のため、地域の知名度は開設前から担保されています。近所からはおしゃべりと島田市つかり体操支援が毎週あり、ハーモニカボランティアなど町内の応援が数多くみられることに特長があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症やターミナルケア、介護保険についての説明・講座の依頼には積極的に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・ご家族、地域自治会、行政の意見を参考に、改善できるところは行うように努めている。	例えば転倒事故では、行政「プランに位置付けてほしい」、自治会「職員数との因果関係を」、歯科医「転倒で抜けた歯は念のため持参を」と挙がり、豊富なメンバーの知己が有意義な場へと発展させていることを書面確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・認定調査や更新申請時にやり取りをしたり、それ以外にも協力関係を築くようにしている。	運営推進会議へは毎回出向いてくださり、貴重な助言を得ています。現在島田市には地域密着型事業所の連絡会がなく、事業所からは行政窓口働きかけたり、同業者同士で「やりたいね」と声を掛けあっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・基本的に拘束をしない理念のもと、研修への参加や個別ケアの実践、拘束感のないケアを行っている。	本年度から事故統計をとり始め、リスクマネジメントに力を注げるようになったことから現場の安定感が覗えます。また、取組みを通じて職員も「もしかしたらこれは防げたかも」と、意識改革にもつながっています。また結果は家族にも報告しています。	状況によってはユニットの施錠があり、玄関は押しボタンが必要となっていることから、定期で議題にするなど意識が固定しない工夫を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ユニット会議等で話し合いがなされている。 又、内出血発見シートを用いて検討をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・入居者の方で、成年後見制度を利用していた方がおり、弁護士とのやり取りをしていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時にわかりやすい言葉を使用して説明を行い、署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議を全員のご家族にお知らせし、ご意見を伺うようにしている。	家族の関わりは総体としては厚く、運営推進会議は最大7名の出席実績もあります。プランを介してのやりとりも頻繁にあり、キーパーソンに事情があって面会が難しいときは管理者兼ケアマネージャーが自宅訪問しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者会議(管理者・ユニットリーダー) ・ユニット会議 ・個人面談 ・スタッフ懇親会 等	昨年の目標であった個人面談については代表者が全員に対しておこない、「資格をとりたい」といった具体的な声も得られ達成しています。また年間の個人目標をたてての年2回の面談の制度を定着させるべく、始動しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・税理士、労務士の関与による助言等により適切な整備を図るように努めている。 ・適切な内部規定を作成し整備するよう図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内部研修や事業所で勤める研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・近隣の施設との交流で、制度や研修、ケアについての情報交換に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・環境に早く慣れていただくために、ケアプランの目標に沿ったケアを個別に丁寧に行い、スタッフや利用者との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族との面談を丁寧に行い、満足いく聞き取りを心掛ける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・在宅のケアマネと連絡を取り、入居前に情報を得るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・生活者としての視点で、その方と食事作りや、洗濯物たたみ等を行うことで、共同生活の一員として過ごしてもらうように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・体調不良時や受診時に、家族と連絡を密に取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居されても以前の友人や近所の方など、面会に来て下さる方を拒まず受け入れている。	面会は「何時まででもいいですよ」と知らせてはいますが、玄関施錠が20時のためかそれ以降留まる家族はいません。事業所としては面会よりも、受診を含む外出での食事やドライブ、買い物を奨励し、家族も協力的です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・レクリエーションや作業により、入居者同士のコミュニケーションが出来るように職員が間に入っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院や転居先への情報提供をし、フォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・これまでの生活歴を伺い、その事柄をケアプランに生かせるように努力している。	広告チラシをみて「ハンバーガーが食べたい」と突然言い出すこともあり、傾聴だけでなく視覚での刺激も併せて大切にしています。入浴や食後のゆったりとした時間で取得したものはユニット会議を通じてプランに反映されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・出来るだけ細やかな聞き取りでアセスメントを行うことで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一日の過ごし方、心身状態の把握は目標に沿って行っている。有する力等の把握は努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ユニット会議内のカンファレンスにて状況変化の確認等を行って、介護計画へ反映させている。	朝礼は夜勤者も残っているため、素早い変更も叶っています。家族には説明と合意押印はありますが、サービス担当者会議として揃うことがなく課題としています。幸い成年後見の司法書士との会議は近く予定されており、事業所としても継続を期待しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日常の申し送り、カンファレンスの実施で職員間の情報共有を深めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・鬱的な方への気分転換の試み。外出、陶芸、工作、編み物、デイサービスへの訪問等工夫をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティア(音楽、ドッグセラピー、体操、傾聴等)の柔軟な受け入れで、潤いのある生活を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・主治医⇄ケアマネ連絡票やメモを用いたり、必要時同行受診する等を行っている。	かかりつけ医でも受診が困難になれば往診くださる例もあり、概ね在宅からの継続で家族が付添っていますが、気がかりな症状があれば職員も同行します。平日午前中のみ勤務ですが看護師の健康管理もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・平日AM 看護師に排便がないことを伝え、適切な処置が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時情報提供書を用いて、病院のMSWを通じて支援できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ケアマネ連絡票や主治医との面談を行い方針を確認し、家族の意向も伺いながら行っている。	かかりつけ医のなかには往診が無理ということがあり、事業所としては家族が「此処で」と望むならば主治医を替えてもらえたら取組めると考えています。また葬儀参会の礼状にあかりの名前がしたためられ感謝を示してもらった事例からは、事業所の尽力の深さが伝わります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・努めている。 新人については、管理者、リーダーが指導をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・施設内研修で、消火器の使用方法や避難方法を訓練している。	法定訓練2回のうち1回は消防署職員立ち合いがあり、職員レポートからの反省点や感想も総括が書面化されています。町内会の防災組織とはデイサービス単体の頃から法人として関わりをもち、防災管理者が顔の見える関係を築いています。	建物も堅固で、かつ井戸を保有することから「有事には地域の皆さんに貢献できるのでは」との自負もあるため、町内会の発電機で井戸の汲み上げ試用を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・出来ている。 個人個人の人格に応じ対応している。	「利用者の家宅へと訪問介護者のように働かせてもらうという気持ちで」ということが代表者から繰り返し示唆されているため、「入室にはノックする」「何かにつけ尋ね確認する」といったことが自然に在ります。また面会簿は個人毎に用意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・出来ている。 個人の要望に従っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・出来ている。 個別に時間を設けて対応している。 (お花・作り物・縫い物 等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・出来ている。 顔そり 朝の洗顔		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・半分出来ている。 支度は出来ているが、片付けは職員任せになってしまう。	家庭的でありながらも栄養面や彩りが吟味され、また大根おろしにシソの刻みが入り、五目豆の豆も落花生だったりと気持ちが手数として反映されていました。全利用者が女性のため食材のことや調理法について賑わっていました。	車いすのまま食事の人もいましたので、椅子への移乗ができない理由を職員間で話し合うことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・出来ている。 その時期、状態に合わせ、又各個人の好みに応じている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・出来ている。 毎食後必ず、口腔ケアしたことをチェックしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・出来ている。 以前、リハパン等使用していた人が布パンへ変更となっている。	ユニット毎に3箇所あり、また活動室には専用トイレもあります。場所がなくやむなく取り付けたとのことですが避難扉があることに特徴がありません。皮膚疾患のある利用者へのアプローチが好結果だったことから「この人もできるかも…」と進み、布パンツ移行が3例となりました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・出来ている。 個人のリズムを掴んでおり、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・出来ていない。 個人が希望する時間、回数には届いていない。	一面から脚を入れるごく普通の一般家庭の浴槽ですが、重度化となっても2人介助で湯に浸かる喜びを味わえています。東ユニットでは毎日でない和不穏となる人もいて、状態や要望に応じておこなっています。お楽しみとして足浴を待つ人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・出来ている。 部屋に行きたい人は部屋で過ごす等している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・出来ている。 薬箱を使用し、その日に内服する薬を出している。又、カルテにも何を服用しているか記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・出来ていない。 出来る事を見つけている最中。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・半分出来ている。 本人様の体の動きにより、出来る方と出来ない方に分かれている。 買い物に行ける方は一緒に出掛けている。	日常的に100円均一やスーパーマーケットに出かけていますが、ADLによって頻度が異なることは否めません。最近では西ユニットでは川根の温泉へ、東ユニットは御前崎のなぶら館を堪能し、笑顔の写真掲示もありました。	大衆演劇観覧希望の声があるとのことで、是非実現を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・小遣いを預かっており、必要に応じて出金し、使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙を書く方もおり、ご本人と一緒にポストへ投函しに行くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・出来ている。 レクリエーションや季節折々の花をテーブルに飾ったりしている。	天窓からの採光とともに白い壁と白木の太い梁が空間をより明るくさせています。リビングを中心に放射状となる居室は集いやすく、また職員も全体を見渡せるもので安心感のある設計です。長い廊下には島田の歴史を物語る写真がギャラリーのように並び回想法にも役立っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・半分出来ている。 個別により、違いはある。 活動室を使ったり、部屋に行ったりと自由にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・出来ている。 家からのダンスや湯飲み等を持ち込み使用している。	鏡台には化粧品が、またドレープのあるレースがテーブルに掛けられ、まるで展示場のように洒落た居室は本人が直に案内くださいました。また小さな筆筒一つの居住者は家族との関係が深く、都度衣類交換での面会があります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・出来ている。 ユニット内の物など、各自自由に使用されている。		